



～お盆家族の絆エピソード受賞作品 10 作品～

中学二年生の夏は、大好きな祖母の初盆だった。「おばあちゃんがご先祖様たちと一緒に帰ってくる」と聞き、買い物や掃除を懸命に手伝った。夏空いっぱい響く蟬の鳴き声に負けないくらい、私は張り切っていた。

「おばあちゃんが早く帰って来られるように、きゅうりで馬を作るんだよ。帰りはゆっくり居られるようにナスで作るんだよ。」と母に聞いたばかりの知識で弟に説明した。これから精霊馬を作るのだ。

「馬より飛行機の方が早くない？」まだ小学生の弟が口を挟んだ。「僕、おばあちゃんに早く帰ってきてほしいから、飛行機作りたい。」「でも、決まりなんだし」とはしゃぐ弟を慌てて制そうとすると、縁側で少し遠くを見ていた祖父が振り向き、弟の頭をやさしく撫でた。

「ばあちゃん、喜ぶぞ。速すぎて腰抜かすかもしれないけどな」と笑いかけた。おばあちゃんが亡くなってからずっと落ち込んだ様子だったおじいちゃんは、心から笑っているように見えた。大事なのは、決まりよりも気持ちだよ。喜ぶおじいちゃんを見ていたら、なんだか自然にそう思えた。

おじいちゃんの返事をきっかけに、「そういえば、おばあちゃんは甘いものが好きだったね」と西瓜の船を作ったり、庭で採れたブルーベリーで小さなお供を作ったりした。おじいちゃんは少し恥ずかしがりながら、おばあちゃんとの出遭いの話もしてくれた。常識からは離れていたかもしれないが、帰ってくる人を想い、思い出を語り合った時間は、私たちの絆をより強くしてくれた気がした。

精霊棚に並ぶ、カラフルで、たくさんの種類の想いは、その年から、我が家の慣わしになった。

パンツヒュー！！火薬の匂いを残しながら勢いよく上がる落下傘花火。私はどこに落ちるか分からない紙のパラシュートを絶対見逃さないように見上げながら走る、走る。深い緑の草むらをかき分けて見つけた赤色のパラシュート。一瞬、確かに宝物だった。

女手一つで子ども二人を育てる母は朝から晩まで常に忙しく。そんな母から「落下傘花火でもしようか」なんて誘いの言葉が聞けるのはお盆のその日くらいのものであった。宝物を持ち帰ると、父の仏壇には夏の空に負けないほど青い灯籠が色とりどりの花を浮かび上がらせて回っていた。きゅうりの馬もなすの牛もいなかったが、パラシュートだけは毎年お盆に舞い降りた。

私は大人になり落下傘花火はしなくなった。パラシュートを見上げて走った道も、宝物を見つけ出したあの草むらもうない。でもお盆になると必ずあの火薬の匂いを思い出す。

もう 20 年以上も前の事になりますが、岩手の実家にお盆で横浜にから帰省した末妹家族と私と妹の家族総勢 13 人が集まってワイワイやっていた時のこと。

母がふと「そう言えば、私がまだ独身で家にいた頃、（自分の）母親がこんな夢を見たと言っていた事があったんだけど、、、それがね、おふくろは、仏壇の中にいて、そこにね、お供物があるのだけど、小さい子供達の手が下から伸びてきて、お供物のお菓子や何やらを取ろうとするんだって。サノ（名前）ばあちゃんは、お花が好きだから、お菓子は全部あげるからお花だけは摘むなよ〜。って言っている夢なんだって」と言う話をしました。ふーん、と皆聞いていましたが、妹が、え、ちょっとそれ、今じゃない?!と問い、仏壇を見ると、私達の子供 5 人が子供用の椅子に登ったり背伸びをしたりして、仏壇にあるお供物に手を伸ばしているところでした。

うちの仏壇は母の兄が異宗教のため捨てると言った仏壇で、父は後継ではなかったため母が父と相談して家で預かる事にしたものです。仏間が無かったので床の間を潰して下に高さ 1.2 メートル程の押し入れ、その上に仏壇を置いた立ったまま拝める高さのある仏壇でした。祖母が亡くなってから 20 年以上も経っていましたが、「え〜、サノばあちゃん帰ってきてるんだ〜」と言って、あらためて皆で拝みました。2 年前に群馬に来て今年のお盆は帰省しませんが、8 年前に亡くなった父もきっと実家に帰っていると思い、心の中で手を合わせています。

今から 15 年前のことになります。

私の弟が 17 年前に事故で亡くなりました。まだ 30 歳でした。私の子供が 2 人いるのですが、当時 5 歳と 7 歳でした。

毎年、お盆に実家に帰りお墓参りに行くのですが、お墓参りに行くときに毎回弟が大好きだった缶ビールを買って持っていきます。その時も、コンビニでみんなで弟はこのビールしか飲まなかったよねーどんだけ飲んだんだらうねえーと話ながら買いました。車でお墓に向かう途中でも、弟の話で盛り上がり、子どもたちもお兄ちゃん(弟のこと)また会いたいなあと言っていました。わたしも、お盆だから、こっちに帰ってきてるから、お墓で待ってるかもねーって何も考えずに適当に話していました。

お墓について、わたしはやかんにお水を入れて用意していると、弟のお墓の方から、ワーワーって声が聞こえてきました！旦那と子どもたちが弟のお墓にビールを開けてお供えしようとしたら、ビールの缶の横が裂けてフシューッと吹き出していました！絶対裂けるわけないところから切れてビールが吹き出して、みんなで弟が待ちきれなくて開けて飲んだんだねーって、怖いと言うより、みんなすごくあったかい気持ちになりました。子どもたちは、お母さんの言った通り、お兄ちゃん待ってたんだね！ってニコッと笑いました。

まだ亡くなって 2 年しか経ってない時のことだったので、ほんとに弟が帰ってきてくれたんだなって思い、わたしもすごくうれしい気持ちになりました。きっとコンビニでビールを買ったときから、待ち遠しかったんだと思います。今でも、お墓参りの度に、もう一度ビール開けてくれないかなーなんて思ってしまいます。今年もお墓参りに行きますが、みんなのこと待ってほしいなああって思います。弟にもう一度会いたいです！

私の家では、お盆になると母が必ず天麩羅を揚げてくれます。エビやさつまいも、にんじん、舞茸、玉ねぎと小エビのかき揚げなどです。

祖父母と父の迎え火をおこし、祭壇に備えた食事にも天麩羅は必ずお供えています。

なんで真夏の暑い中、天麩羅を揚げるのかと母に尋ねてみたら、「昔、お婆ちゃんがお惣菜店の商売をしていて、その美味しい味を忘れない為に、お盆で集まった皆に食べてもらいたいからだよ」と言いました。

私はまだ結婚して2年目で、料理は苦手なのですが、家族の味を大切にしたいと思いました。いつか私も天麩羅を揚げてみたいと、今年は実家に帰って母に教わる予定です。

息子が1歳のお盆の頃、痙攣を起こして入院しました。まだ幼いので、私も泊まり込みで、付き添っていました。その時、2人目を妊娠していた私は、精神的なものからか、切迫流産を起こしてしまい、一緒に入院してしまいました。病室で、ベッドを並べて、医師からも、親子で入院は、初めての事だと驚かれました。

それから少しして、息子は退院。私は、結局、1ヶ月以上、入院しました。その間、主人と息子は、私の実家に泊まり、仕事があるので、息子は、一時保育で慣れない保育園へ。私の両親も、泣いて嫌がる息子を、保育園に毎日送迎してくれました。母は、食事の支度や、洗濯もしてくれて、私のお見舞いにも来てくれました。

あの夏のお盆、私は、病院のベッドの上でしたが、家族の絆に助けられて、元気な赤ちゃんを産む事が出来ました。その時、お腹にいた娘は、来年、成人式を迎えます。今でも忘れられない思い出です。

私が子供の頃に父親方の田舎、岩手県に家族で行ったときの話です。

私の祖父のお墓参りで迎え盆をし、親戚たちと久しぶりの再開に楽しく過ごしました。送り盆をする日が来て、その日の夜は田舎での恒例行事にジンギスカンで親たちはお酒を呑んだりと盛り上がっていました。

するとガラガラと玄関の開いた音に一齐に気付いた後に静まり、玄関を見に行くと誰もいません。「玄関の開いた音がしたよね？」とみんなが言ってました。少し間が経つと、「あっ！父さんを送ってない！」と親兄弟が気づき、慌ててみんなで祖父を送りました。それからは親戚で集まるお盆の年は再会の嬉しさで盛り上がっても、ご先祖さまをしっかりと送り届けることを忘れないよう、みんなで心がけたお話でした。

私は現在 3 人目を妊娠中です。

今回の妊娠では、私の体調が思わしくなかったり入院したりでいつもなら安定期に入るとすぐに親戚に妊娠の報告をしていましたが、なかなか話すタイミングが合いませんでした。そこで、もう妊娠後期になってしまいますがお盆にみんなが集まった時に発表しようと思っていました。

お盆の準備と集まる時間の打ち合わせをしようと親戚に連絡をとると、「妊婦なんだから、無理しないで休んでいいよ」と言われ私が驚いていると、なんと親戚中みんな私の妊娠に気がついており、知らないと思っていたのは私だけだと言うことがわかりました。

親戚たちはみんな何となく気づいたらしいのですが「もしかしたらお盆だから、妊婦に無理させないようにご先祖様が教えてくれたのかもね」とも言いながら笑っていました。

ご先祖様元気な赤ちゃんが産まれるように見守ってくださいね。

父が亡くなり、初めてのお盆のとき、私達子供家族 19 人が揃いました。

父は歌が大好きでとても上手でした！取分け（孫）という曲が好きで、集まりの時にはよく歌っていました。

楽しいことが大好きだったので、ワイワイと賑やかに過ごそうという母。すると私の息子がカラオケ🎤を始めました。それも選んだ曲が（孫）だったのです。とても上手でした！父の大好きだった（孫）を息子を通して聞けた私はもちろん母も兄妹達も一時思い出に浸ることができました!! 亡くなったみんなが帰ってくるお盆を今年も無事迎えられる事に感謝をしたいと思います。

我が家は 5 人家族です。私は 3 人兄弟の末っ子です。

上 2 人の兄達は少し遠くにおり、お盆は家族全員必ず集まっていた。しかし、今年はコロナ自粛により、兄たちが帰ってくることはありませんでした。毎年恒例の家族全員でのお墓参りは、両親と私の 3 人になりそうです。

ご先祖様のお墓は静かな森の中にあります。例のごとく、今年もご先祖様への報告と迎え火をするために、お墓参りに行きました。今年は兄達は来ないけどごめんねと思いながらお花を生けていると、お墓の前に白い石が 6 つそなえてありました。

すぐにびん！ときました。きっと兄が置きにきたのだらうと。兄達はお墓参りを忘れてはいなかったのです。

すぐに兄に連絡を取ると、「…」とだけ返信が来ました。なんともう 1 人の兄も同じ内容の返信が来ました。

照れ臭いのでしょうか。しかし、やはり兄が置いて帰ったようです。

遠く離れてはいるけれど、愛と面白さと家族の絆を感じたお盆でした。